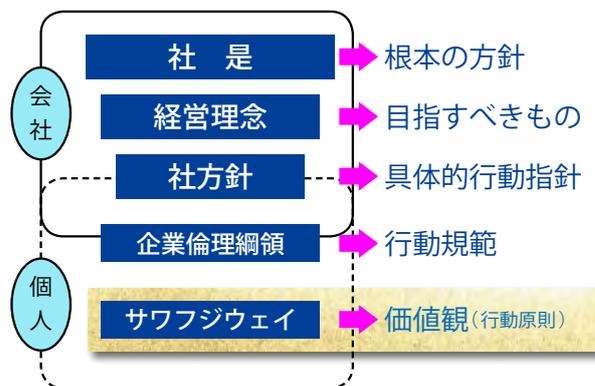


# 特集 『サワフジウェイ』公表

澤藤電機の従業員が仕事に取り組む上での行動原則ならびに共有できる価値観を定め、2018年3月20日に発表いたしました。

従業員自らがサワフジウェイを意識し、幸せになるよう行動する事で、お客様を幸せにし、社会貢献につながり、会社の成長にもつながると考え、定めたものです。



## 東京モーターショー 2017 出展

2017年10月25日から11月5日までの12日間、東京ビッグサイトにて「第45回東京モーターショー 2017」が開催され、澤藤電機は13年ぶりに出展し、延べ約1万2千人の来場者に当社ブースまで足を運んでいただきました。世界初となる水素製造装置、モーター、発電機、冷蔵庫などを展示いたしました。

10月26日に行われたプレスブリーフィングでは、内野専務が出展テーマである「くるまの未来にデンキができること。」について、モーター技術で車両の電動化に貢献し、発電技術で空飛ぶ車の実現と、水素製造装置 H<sub>2</sub> Harmony で快適な水素社会の実現を目指していくことを伝えました。



**発電**

澤藤電機の超小型軽量発電体を搭載するドローン用に開発された発電用エンジン

超小型軽量発電体

超小型軽量モーター、超小型軽量発電体を搭載し、従来よりも長い飛行時間を実現したハイブリッドドローン

ドローンのプロペラ用の超小型軽量モーター

海外向け発電機「ELEMEX」

**水素**

“水素社会”へ向けて、清潔な環境技術で出展中。

水素製造装置 H<sub>2</sub> Harmony

アンモニアを原料にプラズマによる分解によって水素を取り出し製造する世界初の技術

**モーター**

最新電機の世界で人と環境にやさしい社会へ

HV用モーターは永久磁石同期モーターにより小型軽量かつ高効率を実現

EV用モーターはステータ巻線を最適化し、高速回転域を高出力化

車両の電動化に対応したブラシレスモーター

**冷蔵庫**

“水素社会”へ向けて、清潔な環境技術で出展中。

冷凍もできよく冷えるポータブル冷蔵庫「ENGEL」

## サワフジ エレクトリック タイランド株式会社(SET)の工場移転

タイ国ノンタブリー県にありました工場を、事業拡大に向けてパトゥムタニー県バンガディ工業団地へ移転しました。敷地面積で、4,100㎡から15,600㎡へ約3.8倍の広さに拡大しました。

2017年11月より稼働し、今後新田工場で新規商品を製造するライン再編成を進めていくために、その移管先として活用していく予定です。



サワフジ エレクトリック タイランド株式会社(SET)の工場



## クオリティーフォーラム 企画セッション初参加

—多数の聴講者の中で、充実した講演を実施。昨年に続き一般事例発表も行いました。—

【クオリティーフォーラム 企画セッションとは】

多方面の業界から、時代にあった品質経営に関する話題性のあるテーマについて、講演および総合討論を行うものです。2017年は8テーマが定められ、当社は「ISO2015年度版への移行事例に学ぶマネジメントシステムの強化」をテーマとする企画セッションに参加しました。

【開催日】 2017年11月14日(火)、15日(水)

【場 所】 東京一ツ橋 日本教育会館

### 菊地参与による企画セッション講演(11月14日)

当社からは、「ISO2015年版を活用したTQM 活動の推進」と題して、ISOとTQMの賢い活用方法について菊地参与が講演を行いました。

公立諏訪東京理科大学 奥原正夫先生の司会により、多くの聴講者と共に有意義な討論を行う事ができました。



菊地参与による講演の様子



講演会場の様子

### 一般事例発表(11月15日)

『構内物流設計手順の明確化と運搬工数低減』と題し、構内物流における運搬ルート分析および設計手順の事例発表を行いました。

当社の一般事例発表は昨年に続き2回目であり、わかりやすく堂々とした発表を行うことができました。



角田課長の一般事例発表の様子

# トピックス

## 新技術 岐阜大学と澤藤電機の共同開発成果をプレス発表

2018年5月28日 澤藤電機と岐阜大学の共同開発成果についてプレス発表を行いました。

このたび、澤藤電機株式会社（代表取締役社長 吉川 昭彦）は、国立大学法人岐阜大学（工学部 化学・生命工学科 神原 信志 教授）との共同研究により開発してきた、プラズマを用いた水素製造装置「プラズマメンブレンリアクター（PMR）」（以下、PMR）の高出力化に成功しました。PMRは、アンモニアから99.999%の高純度水素を150NL/h※（PMR1本あたり）製造することができます。また、PMRは水素の精製にも用いることができ、99.9%の低純度水素から99.999%の高純度水素を385NL/h（PMR1本あたり）精製することができます。将来的には、水素製造量、水素精製量ともに500NL/hを目指しています。PMRは今後、水素ステーション、燃料電池発電機、半導体製造プロセス、モビリティなどへの応用が期待されます。澤藤電機は2020年にPMRの商品化を目指しています。

※ NL/h（0℃、1気圧での1時間あたりの発生量）



プレス発表の様子



# ステークホルダーとの対話

澤藤電機では、お客様、地域社会、株主・投資家様、代理店・特約店様、仕入先様、社員などさまざまなステークホルダーとの対話を重視したCSR経営を推進しています。

## 地域住民との対話

地域社会と会社との関係を良好に保ち、かつ会社に対する理解を深めていただくために、近隣の地区役員の方々と情報交換会を定期的実施し、近隣からのご要望、ご意見に対して迅速に対応できるよう連携をとっています。



地区役員の方々と情報交換会（2018年6月15日）

## 福祉施設の皆様との交流

地域社会との交流を深めるため、会社と労働組合が合同で近隣の福祉施設の方々を招いて工場見学やレクリエーションなどを行っています。2017年10月には、当社で交流会を開催し、6福祉施設から124名が参加され、福祉施設の皆様と貴重なコミュニケーションをはかれました。



福祉施設の皆様との交流会（2017年10月3日）